

神楽名

にゅうた 新田神楽

伝承地

にゅうた
新田神社

しんとみちよう
新富町大字新田

指定等

県指定無形民俗文化財

伝承団体

新田神楽保存会

代表 新名 正坦



七鬼神

◆ 神楽の概要・由来・その他

新田神楽が伝承されている新田神社は、宮崎県の中央、^{こゆぐん}児湯郡の東南に位置した新富町にある。地内には207基からなる^{にゅうたばる}新田原古墳群があり、昭和19年(1944)に国の史跡として指定されている。

新田神社は旧称を^{しょうはちまんぐう}正八幡宮と称し、新田地区の^{しんしんしゅ}総鎮守社として^{てんしょう}崇敬されてきた。天正5年(1577)、^{とのこおり}都於郡城主伊東氏が^{めら}島津軍に敗れ、米良に敗走した際の兵火に遭い、本殿などを焼失したと伝えられる。現存する^{けいちょう}棟札には慶長11年(1606)の修復の記録が残るなど、その創建の古さが分かる。

毎年2月17日の早朝5時より、社殿にて神事のあと、「^{いちばんまい}壺番舞」から神楽の奉納が始まる。その後、日が昇った頃に、高さ6メートルほどの^{もうそうちく}孟宗竹で作られた^{しめばしら}注連柱や彫り物などの飾り付けが整った境内の^{かぐらや}神楽舎に移り、夕方近くまで神楽が奉納される。

新田神楽の成立は定かではないが、^{あんせい}安政5年(1858)に作られたとされる^{きじん}鬼神面があることから、江戸時代後期には神楽が奉納されていたと考えられる。

◆ 芸能の機会・場所

- 新田各地区の秋祭り... 10月～12月 近隣神社の約10社において5演目ほどを奉納する
- ^{だいだいかぐら}太々神楽(例大祭)... 2月17日

◆ 演目一覧

(社殿での奉納舞)

^{きよ} お清め	^{ごきねん} 御祈念	壺番舞	^{はなまい} 華舞・ ^{けっかい} 結界	鬼神
^{しょうぐんまい} 将軍舞	^{しばこうじん} 柴荒神			

(神楽舎での奉納舞)

^{ごさいてん} 御祭典(神事)	^{くり} 繰おろし	鬼神	^{よにんつるぎ} 四人剣(刀神師)	^{いわどお} 岩通し
^{しょうしんさい} 諸神祭	^{じわり} 地割	^{なかのて} 中之手(かんなぎ)	^{いちにんつるぎ} 一人剣	^{みかさじまい} 御笠地舞
^{みかさこうじん} 御笠荒神	^{だいじんかぐら} 大神神楽(神武神楽)	^{よにんじまい} 四人地舞	^{しちきじん} 七鬼神	^{きよくまい} 曲舞
^{つなこうじん} 綱荒神	^{かぐら} 神楽(綱切)	^{たちから} 手力	^{とびらき} 戸開	^{かみおく} 神送り

※新田神楽は神事も番数に含まれる

※令和5年(2023)2月に奉納された演目に基づく

◆ 演目の特徴

新田神楽は五穀豊穡や無病息災の祈りを織り交ぜながら奉納される。また、「一人剣」の白刃しらばを持ったまま後転するアクロバティックな舞や、「將軍舞」のテンポが速い舞など、旧佐土原藩領らしい勇壮活発な舞が奉納される。

新田神楽の核をなす「大神神楽」は「神武神楽」ともいい、先導者である白の御神面をつけたホッシャいなりやま さとびと いんよう じんむが関連する神々（稲荷山・里人・陰陽・神武）を導き、記紀神話や太鼓のいわれについて語り、岩戸開きの成就を目指すものである。「大神神楽」は天照大神あまてらすおおみかみに関する神楽“大神の神楽”おおみかみという意味である。

一番の見せ場ともいえる「神楽」の名を冠した「綱切」は、素戔嗚尊すさのおのみことの八岐大蛇退治やまのおろちの場面であり、大蛇に見たてた藁網わらつなを、削ぎ、威嚇、牽制しながら蛇切りを行う。

◆ その他の特徴

- 面 ... 中ノ手(かんなぎ)、鬼神、里人、神武、荒神、戸開・大神神楽(ホッシャ・複製)、いぶくろ(男・女) 等
- 楽 ... 太鼓、鉦、笛
- 装束... 白衣、白袴、白舞衣めぎん きんらん、金襴ちはやの千早、緋色の大口袴、狩衣、烏帽子、等
- 採物... 鈴、扇、柴(椎の葉)、榊、御幣つきの杖、御幣、長御幣、弓、矢、刀、禪、御笠 等
- 文書... 「新田神楽教本」(神楽歌集、新田神楽保存会、昭和55年)、番付表(明治24年)
(古文書等は焼失し残っていない)

◆ 伝承の現状・課題

昭和45年に神楽保存会が発足し、小学生への活動を始めて20年以上が経つ。子供の時に舞っていた者が、就職してからも関わってくれることもあり、令和6年(2024)3月現在、保存会には36名が在籍している。

毎年、小学校3年生が授業の一環で見学に来るなど、地元の小・中学校と連携を図りながら、幅広く後継者の育成に力を注いでおり、地域を挙げて伝承活動に取り組んでいる。



華舞・結界



地割



綱切